

モザンビークから農民リーダーがやってくる！ 「土地を生きし、農業に生きる～ UNAC (全国農民連合) の取り組み」

モザンビークでは、「土地と自由を取りもどす」ことをスローガンに植民地支配からの独立運動を農民たちが闘い、苦難の末に独立を達成すると、農民はふたたび土地を耕し、懸命に食料を生産してきました。

しかし、近年、農業投資による土地収奪(ランドGrab)が、深刻な影響を及ぼし、特に北部三州(ナンブーラ州、ニアサ州、ザンベジア州)をまたぐナカラ回廊地域で、大豆生産のための大規模な土地収奪が加速化しています。

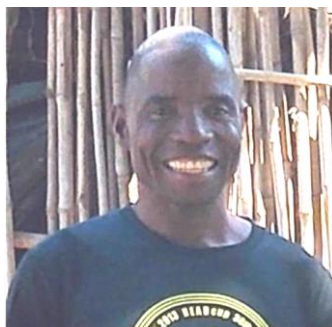
ナカラ回廊地域では、日本政府ODAによる「日本・ブラジル・モザンビーク三角協力による熱帯サバンナ農業開発プログラム(略称:プロサバンナ事業)」が進められるなか、計画の不透明性、情報共有や意味ある協議の不足、小農の意見や経験が尊重されない、などの問題への批判が高まっています。

そこで、モザンビーク最大の農民組織UNAC(全国農民連合)を代表する3名を招聘し、日々の営み、農業のあり方、農民運動の取り組み、土地収奪の現状、プロサバンナ事業の問題点など、その声を直接聞き、モザンビークにおける土地と農業、そして日本の援助や私たちの食のあり方について、共に考えてみたいと思います。



■アナ・パウラ・タウカレ
(Ana Paula Taucale)

UNAC(全国農民連合) 副代表
ナンブーラ州の農民。全国2,200の農民組織が加盟するUNACの副代表として、農民の権利擁護とネットワークづくりに尽力している。



■コスタ・エステバオ
(Costa Estevao)

UNACナンブーラ州支部UPC-N代表
ナンブーラ州の農民。多様な作物を栽培する篤農家であり、州の農民運動のリーダーとして、2万人のメンバーから厚い信頼を得ている。



■ヴィセンテ・アドリアーノ
(Vicente Adriano)

UNAC政策提言・国際連携担当
モザンビーク西部・テテ州出身。(テテ州は炭鉱開発による強制移住や公害が問題となっている。)農民の声を世界に発信している。

○日時: 2015年7月8日(水) 18時～20時半

○会場: 明治学院大学 白金キャンパス 3号館1階3202教室

(地下鉄・白金高輪駅、白金台駅、高輪台駅より徒歩7分、JR品川駅・目黒駅よりバスで10分)

<http://www.meijigakuin.ac.jp/access/> <http://www.meijigakuin.ac.jp/campus/shirokane/>

○定員: 100名(事前申し込み必要・先着順)

○資料代: 500円 ※学生無料(大学院生含む)

○お申込み: 右のURLよりお申込みください⇒<http://ngo-jvc.info/1SmoFsG>

※電話でのお申込みは下記問い合わせ先にて受け付けています。

○お問合せ先: (特活)アフリカ日本協議会(AJF) 齊藤

電話: 03-3834-6902 / FAX: 03-3834-6903 / email: info@ajf.gr.jp

○共催: (特活)オックスファム・ジャパン、(特活)アフリカ日本協議会(AJF)、No! to Land Grab, Japan、(特活)日本国際ボランティアセンター(JVC)、ATTAC Japan、モザンビーク開発を考える市民の会

○後援: 明治学院大学国際平和研究所(PRIME)

※当日は逐次通訳が入ります。